

第2章 職場改善チェックシステムの構築

1. 職場改善チェックシステムの概要

このシステムは、職場の高齢化問題に関わる改善を行いたい「何から手をつけてよいのか」「どのように改善を進めたらよいのか」等で戸惑っている場合等、主として「改善の計画(Plan)」段階で、問題解決の手がかりを与えることを目的として構築したものである。このシステムはまた、次の改善を目指す「改善の継続的活動(Action)」にも利用可能となるものである。システムの特徴としては、ユーザーには高齢化対策を検討する上で必要と考えたキーワードから作成したチェック項目を、改善への啓蒙活動をも意図したアニメーションを利用して自社のイメージとの比較により問題点を認識させながらチェックさせる方式を採用している。チェックした項目に関しては、問題解決へのコメントや、改善の実践に向けて利用可能な「改善事例」や「改善手法」、「関連支援機器」、また、必要に応じて「作業姿勢負担評価システム」の使用等に関わる検索情報を自動的に提供するシステムとなっている。

2. キーワードの選定

チェック項目のキーワードの選定に当たっては、このチェックシステムからリンクされる「職場改善ノウハウデータベース」が、主として“高年齢者雇用開発協会の共同研究成果からの事例データ”を利用していることから、これら事例企業の業種・業態に共通しかつ幅広い水平展開が可能となり、高齢化対策として必要と考えられるキーワードの選定を試みることにした。その結果、本研究では、共同研究でも使用され、本プロジェクトメンバーが推奨している「人間性と生産性の融合」の観点から問題解決をはかるエルゴマアプローチ⁴⁾で用いられている「指摘事項と改善の方向」の項目をベースに、表2-2-1に示す21個のチェックキーワードを選定した。

表2-2-1 選定した21個のチェックキーワード

No	キーワード	No	キーワード
1	作業姿勢	12	振動・音
2	上げ降し	13	騒音
3	運搬	14	身体的疲れ
4	昇り降り	15	精神的疲れ
5	転倒	16	目がかすむ
6	探す	17	ポカミス
7	汚い	18	疲労回復知識
8	危険行為	19	健康保持増進
9	温熱環境	20	高齢雇用
10	粉塵・ガス	21	能力開発
11	照明		

21個のキーワードに対する高齢者対策を検討する上で、本研究では大きく下記の3つにキーワードを分類した。すなわち、

(1) 「不具合作業の改善：キーワード1～3」

キーワード1～3の「作業姿勢」「上げ降し」「運搬」は、業種業態を問わず、例えば、製造業のみならず介護等においても、重要な改善項目と考えた。

(2) 「作業環境の改善：キーワード4～13」

キーワード4～13の「昇り降り」「転倒」「探す」「汚い」「危険行為」「温熱環境」「粉塵・ガス」「照明」「振動・音」は、主として製造職場で改善項目となっているが、例えば、「昇り降り」「転倒」「探す」「汚い」「危険行為」等は、その他の業態にも共通して当てはまるものと考えた。

(3) 「健康の保持と増進：キーワード12～21」

キーワード14～21の「身体的疲れ」「精神的疲れ」「目がかすむ」「ポカミス」「疲労回復知識」「健康保持増進」「高齢雇用」「能力開発」は、業種業態を問わず、高齢者対応策を幅広く水平展開できる項目と考えた。

3. アニメーションのストーリー

チェックシステムは、マクロメディア社のFLASHを使用したアニメーションを使用することを考えた。アニメーションにしたのは本チェックシステムを改善のための啓蒙活動にも役立てることを意図したからである。アニメーションはストーリー化しユーザーが自社のイメージとの比較によりわかりやすくチェックできるようにした。上記の「作業環境の改善」のキーワードに関しては10個ものキーワードがあり、各業種に共通の項目があることからユーザーのチェック時間をも配慮して、ストーリーを2分割することとした。

下記に本研究で作成した4つのチェックストーリーを示す。

- | | |
|------------|---------------------|
| 「不具合作業の改善」 | (①配送部門「作業姿勢をチェック」) |
| 「作業環境の改善」 | (②工場編1「整理・整頓をチェック」) |
| | (③工場編2「作業環境をチェック」) |
| 「健康の保持と増進」 | (④事務所編「仕事の負担をチェック」) |

これらアニメーションストーリーは、社長「甲斐善太郎」が率いる某会社の「配送部門編 “作業姿勢をチェック”」「工場編1 “整理・整頓をチェック”」「工場編2 “作業環境をチェック”」「事務所編 “仕事の負担をチェック”」を設定し、社長が率先垂範し改善に取り組む内容構成とした。「改善の成功の有無はトップの姿勢によるところが極めて大きい」ことから、社長をリーダーとしたこのようなストーリー化を行った。図2-2-1~4に本チェックシステムで展開されるアニメーションストーリーの要約を示す。



図 2-2-1 アニメーションストーリー「作業姿勢をチェック」の要約

次に、ストーリーの中で展開されるチェック項目のチェック法については、ユーザーに“多い”“少ない”等の程度差を問うても、業種業態によってまた同一業種内さらには対象とする場所によってもチェック判断の基準が異なり、適切なコメントを提示することが困難と考えた。そこで、本チェックシステムのチェック法は、(困っている、困っていない)の形式とし、“困っている”とした場合は、問題解決へのコメントや、キーワードからリンクされる改善の実践に向けて利用可能な「改善事例」や「改善手法」、「関連支援機器」、また、必要に応じて「作業姿勢負担評価システム」の使用等に関わる検索情報を自動的に提供することとした。

表2-2-2 に、アニメーションストーリーの中で展開される「テーマ」「ストーリー」「チェック項目(質問事項)」「キーワード」の関係を示す。

表2-2-2 アニメーションの中で展開される「テーマ」「ストーリー」「チェック項目（質問事項）」「キーワード」の関係

テーマ	ストーリー	チェック項目（質問事項）	キーワード
不具合作業の改善	作業姿勢をチェック (配送部門編)	疲れを伴う悪い作業姿勢が発生し困っていませんか？	作業姿勢
		重たいものを持ち上げたり降ろしたりすることで困っていませんか？	上げ降し
		重たいものを運ぶことで困っていませんか？	運搬
作業環境の改善	整理整頓をチェック (工場編1)	高いところでの仕事やそれに伴う昇り降りなどで困っていませんか？	昇り降り
		床が滑ったり何かに躓いて転びそうになったりして困っていませんか？	転倒
		工作中必要な物がなかなか見つからず探し出すのに困っていませんか？	探す
		仕事場が雑然としていたり、汚かたりして困っていませんか？	汚い
		危険な行為が発生し困っていませんか？	危険行為
	作業環境をチェック (工場編2)	温熱環境（気温、湿度、気流、輻射熱等）が悪く困っていませんか？	温熱環境
		粉塵やガスが発生して困っていませんか？	粉塵・ガス
		照明が暗くて困っていませんか？	照明
		手指に多大な振動が伝わるような作業で困っていませんか？	振動・音
		騒音で困っていませんか？	騒音
健康の保持と増進 (雇用の活性化)	作業負担をチェック (事務所編)	筋肉を使う動的の仕事が多く身体的疲れが発生し困っていませんか？	身体的疲れ
		FA化・OA化に伴う静的仕事ではあるが翌日まで疲れがとれず困っていませんか？	精神的疲れ
		目がかすんだり、文字や記号などが小さくて判読できず困っていませんか？	目がかすむ
		物忘れ等ポカミスが発生し困っていませんか？	ポカミス
		仕事による疲労回復方法などの知識がありますか？	疲労回復知識
		中高年齢者のための健康保持や増進等に関する知識がありますか？	健康保持増進
		高齢化対応型の雇用システムに関する知識がありますか？	高齢雇用
		中高年齢者の能力開発に関する知識がありますか？	能力開発

図2-2-5 に、職場改善支援システムのトップ画面「チェックする。－あなたの職場の改善ポイントがわかる。－」からリンクされる“職場改善チェックシステム”の初期画面を示す。また、
 図2-2-6 にユーザーが“作業姿勢をチェック”を選択した場合の画面を示す。

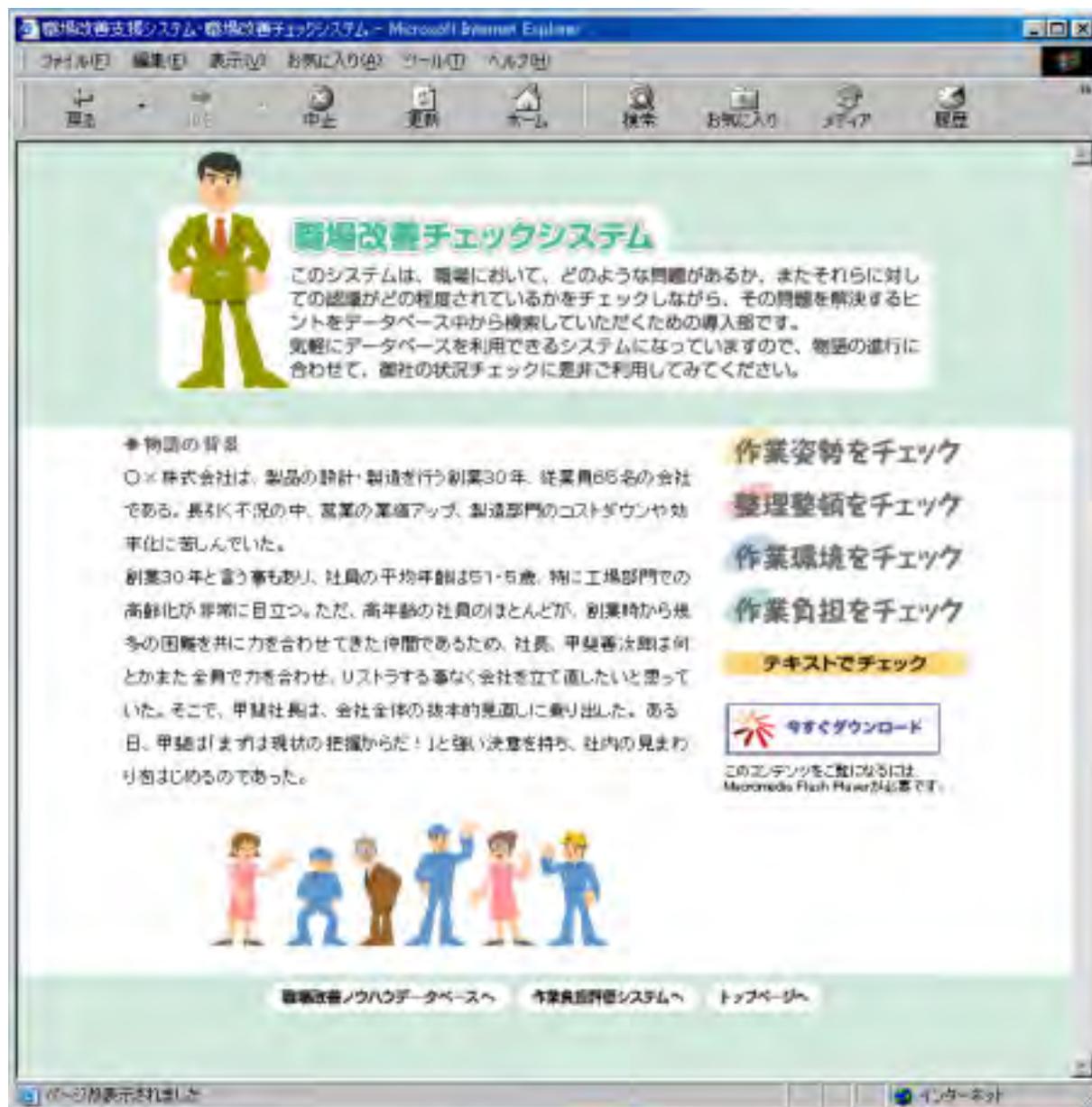


図2-2-5 職場改善チェックシステムの初期画面



図2-1-6 “作業姿勢をチェック”を選択した場合の画面

4. ストーリー内におけるチェックの流れ

図2-2-7 に、ストーリーとチェック項目の流れを示す。

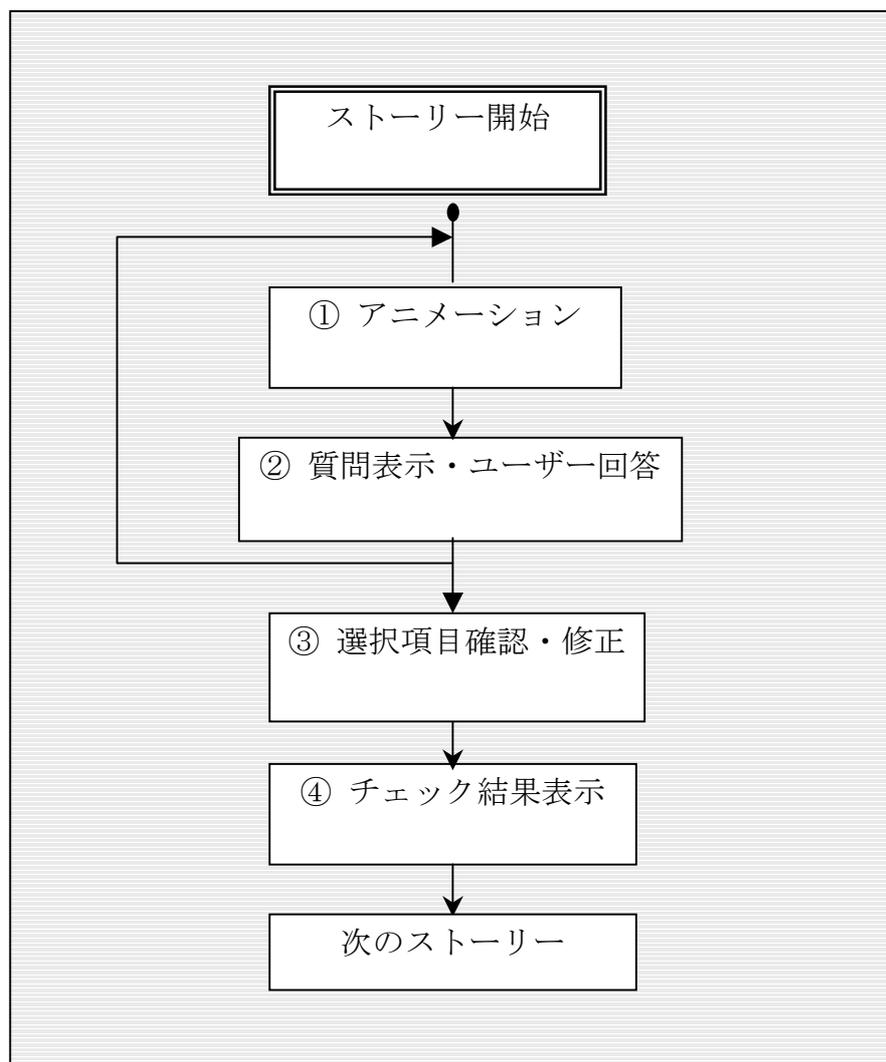


図 2-2-7 ストーリーとチェック項目の流れ

これら流れの説明を下記に示す。

- ① ストーリーをアニメーション表示し
- ② アニメーションの途中でチェックポイントとなる質問項目を表示し、ユーザーに回答を要求する。なお、ユーザーによる選択状態は、保存する。
- ③ ストーリーの終了後、質問項目およびユーザーのチェック項目を一覧表示する。また、ここでユーザーはチェック項目の修正が可能となっている。
- ④ 最後にユーザーがチェックした項目のコメントを表示し、次のストーリーに進む。

なお、チェックシステムには、一度見た場合に再度ムービーを見なくてもチェックを行えるように（チェックのみを行いたい場合も考慮し）するためストーリー表示ページに、「早送り」ボタンを設定し、これを選択した場合には、次のページにリンクを行うようにした。

図2-2-8 にアニメーションの進行に従って適宜提示されるチェック項目画面を示す。

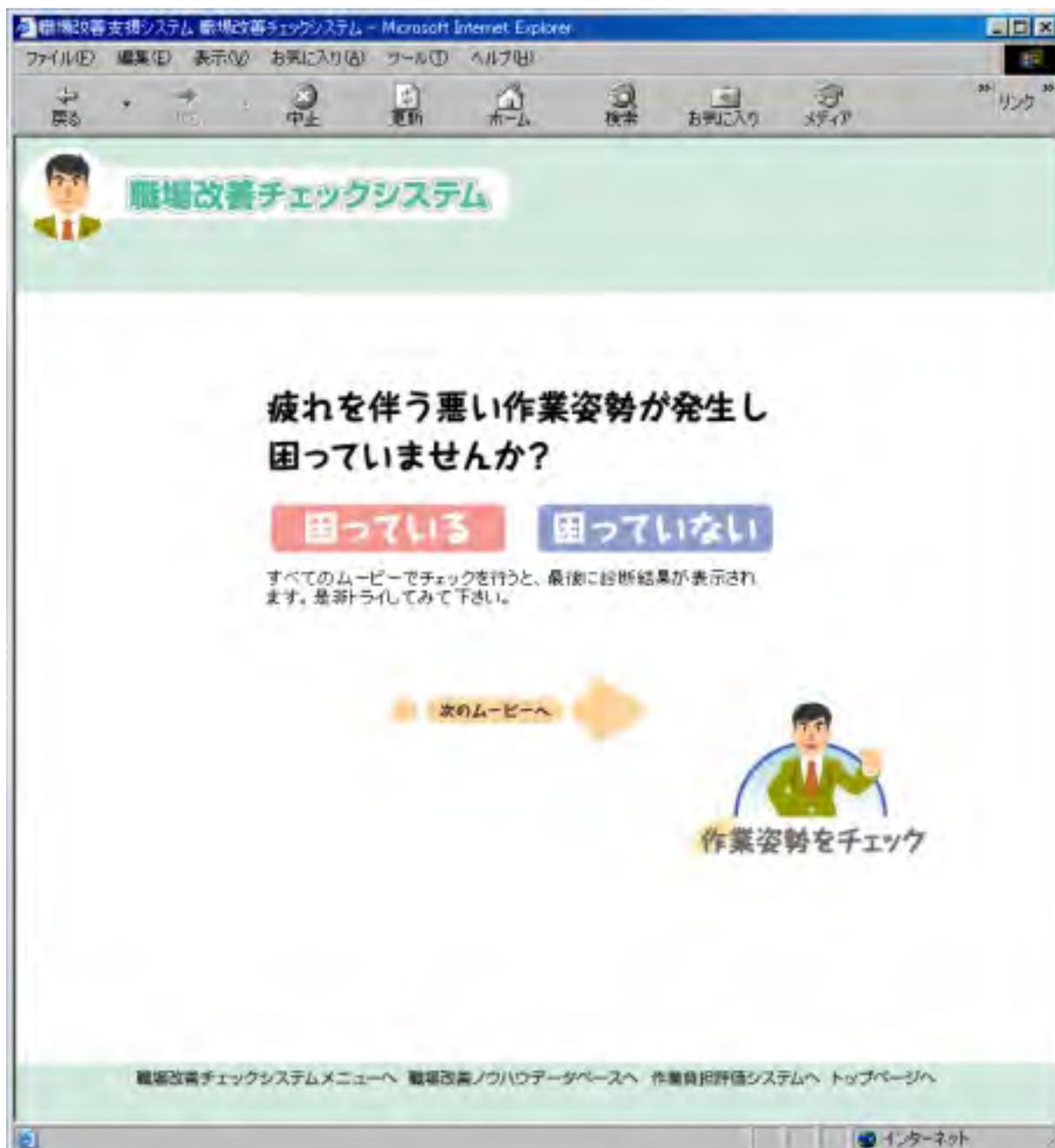


図2-2-8 チェック項目画面の表示例

5. チェック結果

チェック結果の内容は、次の項目が表示されるようにした。

1) ユーザーへのコメント

ユーザーが“困っている”とチェックした項目と問題解決へのコメントが提示される。コメントの内容は各チェック項目に対応するものをDBより取得し表示する。特に、ストーリーの中で「作業姿勢をチェック」項目で“困っている”をチェックした場合は、負担の程度を定量的に把握できる「作業姿勢負担評価システム」の利用を推奨し、改善の実践へのトリガーとしている。

チェック項目から取得されるコメント内容を表 2-2-3 に示す。

表 2-2-3 チェック項目から取得されるコメント内容

(1) 作業姿勢をチェック (配送部門編)
(作業姿勢の改善には)
中腰、ひねり、前屈、後屈、ねん転などの姿勢は腰に対する負担を増加させます。不具合作業姿勢を無くすこと、同一姿勢を長時間とらせない工夫が必要です。取り扱う対象物の高さや作業域、保管方法や機器類の配置、運搬（移動）方法等の改善、また不具合作業姿勢をとらざるを得ない場合には身体保持具の利用や支援機器の導入、作業方法への配慮をお勧めします。 姿勢改善の実践に向けて、現状の姿勢の負担を算出し改善対象作業を選定するとともに改善アイデアの有効性を把握するには本システムの作業姿勢負担評価システムを使用して下さい。 また、改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して不具合作業姿勢の問題の解決へ取り組むことを期待します。
(物の持ち上げ・降ろしの改善には)
持ち上げ・降ろしに要する力を排除・軽減させることは、頸肩腕部や上肢、腰の痛みや障害を予防する上でも大切です。取り扱い対象物の重量の減少、持ちやすい形態への改善、腰あて等の身体的保持具の利用、昇降作業台や支援機器の導入、身体を対象物に近づけて重心を低くして取り扱う等の作業方法の改善が考えられます。持ち上げ・降ろしには支援機器の利用も多く利用できます。 本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して問題解決へ取り組むことを期待します。
(運搬の改善には)
運搬作業の改善は、過重負担の回避、災害防止、急性・慢性の腰痛症や膝関節症、頸椎症などの筋骨格系疾患の予防、子宮脱（下垂）などによる流・早産などの予防に大切です。運搬は運搬そのものを少なくする、運搬しやすくすることが

重要です。手運搬の場合は取り扱い対象物の重量及び回数の減少、持ちやすい形態や安定度への配慮、また重量物の場合は各種の支援機器が利用されます。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して運搬問題の解決へ取り組むことを期待します。

(2) 整理整頓をチェック (工場編 1)

(高所作業の改善には)

敏捷性や体力低下が否めない高年者には墜落や転落事故の発生割合が高く、傷害の程度も若年者に比べて重くなります。階段、開口部、屋根といった高所作業では、作業床の広さの確保、足場、手すりや囲いを設ける等の墜落防止措置、昇降設備の導入、照明の確保、安全带や保安帽、保安靴の着用、作業標準に基づいた安全な作業方法の確保が重要です。高所作業車や昇降作業台などの導入も安全対策の一つとして有効ですが、機器の使用にあたっては作業者間の合図の仕方、昇降中や移動中の安全対策を実施して下さい。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して高所作業の安全確保へ取り組むことを期待します。

(転び事故防止のためには)

下肢の筋力や反射神経などの低下により平衡機能が衰える高齢者にとっての転倒防止は重要です。コード類や物にひっかかったり、つまずいたりしないように通路の整理・整頓、作業靴や床面を滑りにくいものにしたり、すべる危険性がある場合には、安全柵や手すりの設置、すべりやすいことを明示する表示や足下が確認できる十分な照明への配慮が必要です。また、すべったときに身体が触れて倒れたり、けがなどを起こす恐れのある物は置かないことも大切です。加えて運搬車両などと混在して通路を使うことが無いようにすることも大切です。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して転倒防止へ取り組むことを期待します。

(探すムダの改善には)

「探す」は作業を遅らせ無駄の原因となります。探すことに時間がかかる原因をみつけ、無くせないのか、探すものを減らせないかを考えることが大切です。探す動作を減らすためには、いらぬものを捨て、必要なものを直ぐ取り出せる整理・整頓ができないか？、部品の種類を減らせないか？、作業手順通りに必要な部品が投入できないか？、識別(形状・色・触覚)法を工夫する等の改善が大切となります。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して探す動作の改善に取り組むことを期待します。

(整理・整頓の改善には)

整理・整頓は、物が見つからず探し回るといった無駄な動作を無くし、躓く・滑り等の転倒や物への衝突等の危険性を回避し、ミスを減少し効率良く仕事を遂行する上での基本となるものです。「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ」の5つの頭文字をとり5Sと呼び、活力ある企業づくりへの改善活動の基本として各種企業で展開されております。5Sについては多くの文献が出版されています。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して5S活動へ取り組むことを期待します。

<p>(不安全行動の改善には)</p>
<p>災害の防止には事故につながる可能性のある要因をなくすことが大切です。事故や災害を起こそうとして行動する作業者はいません。不安全行動は、作業手順を十分に理解していない教育・訓練の要因、想定外の急な作業等の管理上の要因、不具合な設備・環境上の要因、本人の心理・生理的要因等が複雑に関連して発生します。最も安全で効率的な作業方法を定め、作業標準を確立し周知させることが大切です。非常作業や異常処置作業などについても作業標準書の準備が大切です。災害のない快適な職場づくりのために人間工学や生産管理、健康管理の観点から定期的に職場を見直すことが重要です。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して不安全行動防止へ取り組むことを期待します。</p>
<p>(3) 作業環境をチェック (工場編2)</p>
<p>(温熱環境の改善には)</p>
<p>私達の暑さ寒さの感じ方は、気温、気湿(湿度)、気流及び輻射熱(反射熱)の4つの環境要素からつくられます。放熱を抑制する高温多湿の環境になれば疲労を増し、作業効率に影響するだけでなく、熱中症などが生じます。重筋作業では放熱が促進され、身体の水分(塩分)が失われることとなります。温熱環境では冷房装置の導入、自然換気を促進するための窓やドアの開放、熱を逃すために天井を高くし、屋根の色や直接日差しがあたる壁に金属を利用しないこと。熱を保つような材質を避けること。熱の発生源としての機械や装置には断熱材を使い、反射熱源と作業者のあいだに遮蔽板を使うことも有効です。水カーテンや木、布なども断熱材として効果があります。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して温熱環境改善へ取り組むことを期待します。</p>
<p>(粉塵・ガス環境の改善には)</p>
<p>事務職場では、喫煙による粒子状の物質(粉じん)と一酸化炭素などのガスが存在し空気汚染をもたらす。溶接、研磨作業や岩石等を扱う職場では、金属や鉱物類の粉じんが発生します。また、有機溶剤などの化学物質を扱う職場では各種のガス類が生じます。これらは呼吸とともに体内に吸収され、粉塵職場ではじん肺、ガスを扱う職場では中毒等の職業性疾患が問題となります。作業者に粉塵や有害なガス類を接触させないためには、粉塵拡散防止カバーの取り付けなどの工学技術的な対策が必要です。発生源を密閉してしまうことが最も効果的ですが不可能な場合は、局所排気、全体換気装置などによる対策を行って下さい。防塵マスクや防毒マスク等の個人保護具は、あくまでも二次的な対策とみなすべきです。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して粉塵やガスの発生防止に取り組むことを期待します。</p>
<p>(照明の改善には)</p>
<p>職場の採光、照明、彩色などは、物の見えやすさの条件だけでなく、安全と健康性、快適性、そして作業能率に大きな影響をもたらす環境要素として大切です。加齢により必要とする照度は高くなり、その一方でまぶしさを感じやすくなり、色の識別が若年者に比べて困難になります。作業者に適した照明環境の整備が大切です。一般の職場では照度が1000ルクス前後の水準に保たれているのが現状です。照明環境を考える際には照度基準を満たすだけでなく、反射率、光源の</p>

<p>色や演色性、グレア、影などについて検討することが必要です。また、精密作業、検査作業、高齢者が働く作業場所では一部分を照らす局部照明を追加し、対象物を見やすくする配慮が必要です。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して照明環境の改善に取り組むことを期待します。</p>
<p>(振動環境の改善には)</p>
<p>手持ち工具等による局所振動は、レイノー現象(白ろう病)が代表的ですが、重量保持による腰痛、振動音による難聴、肘の障害など広範囲な障害をもたらします。また、電車や船舶に乗っていたり床全体が振動している場合には、全身振動を受けることになり、これらは交感神経緊張状態をもたらし、内分泌系にも影響を与え、脊柱の異常、胃腸障害、月経障害等をもたらすことが知られています。機械と床との間にゴムなどを挿入して振動が床に伝わらないようにしたり、手持ち工具類の振動対策には、ゴム等の防振カバーを取り付けること等が行われています。軽量化することも大切です。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して振動対策に取り組むことを期待します。</p>
<p>(騒音環境の改善には)</p>
<p>聴力保護、消化器系や神経系及び不快感や集中力への悪影響の排除、聞き違いの防止、各種機器類の警告音の弁別を明らかなとするためにも、職場環境における騒音防止対策は重要です。最も効果的な対策は音源対策です。騒音の少ない機器にすること、音源を遮音材などで密閉すること、作業方法の変更などを考えてみましょう。音源対策では不十分な場合には、壁に吸音材を貼り付けたり扉や衝立で音を遮ります。作業側側の対策としては耳栓などの保護具の使用も考慮しなければなりません。防音保護具は音の性質を考慮し、規格にあったもの、快適なものを選ぶことも重要です。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して騒音対策に取り組むことを期待します。</p>
<p style="text-align: center;">(4) 作業負担をチェック (事務所編)</p>
<p>(動的な身体疲労の改善には)</p>
<p>全身的な動的筋収縮を主体にした作業は、作業強度によっては汗がでる重筋労働になりやすく全身的な疲労や災害性腰痛などが問題になります。腰痛などの筋骨格系の障害(傷害)予防のためには、機械化や省力化が最も有効です。高温環境での動的筋作業では、環境温度の低減が必要です。また、ナトリウム成分含有のスポーツ飲料なども効果があると言われてはいますが、一連続作業時間等の時間規制に配慮することも大切です。本システムの作業姿勢負担評価システムを利用して作業姿勢と重量負荷の関係から身体的負担評価が可能です。改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して動的な身体負担の問題解決へ取り組むことを期待します。</p>
<p>(静的な身体疲労の改善には)</p>
<p>関節の動きを伴わない筋肉の緊張が求められる静的筋作業は、回復の悪い筋の疲労がもたらされ、頸肩腕障害や疲労性の腰痛に結びつきます。また、寒冷環境では産熱量が少なく放熱量が多いため寒冷障害が発生しやすくなります。立ち作業、腰掛け作業・座作業では、一連続作業時間や休憩の配置、負担の少ない椅子の使用が大切です。また、肩よりも作業点が高にならない作業のレイアウト、上</p>

<p>肢の作業域内に作業対象物や道具等を設置するなど、作業者の身体寸法に合わせた作業システムをつくることが不可欠です。一連続作業時間は、筋骨格系の負担との関連で一般的に 60 分と考えられています。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して静的身体負担の問題解決へ取り組むことを期待します。</p>
<p>(視・聴覚低下の改善には)</p> <p>加齢により視力及び聴力が低下します。視力の低下に対しては、照明器具の追加や外光を取り入れて照度を高めることが必要です。しかし、照度が高いとグレアが起きやすくなるのでグレア防止対策についても配慮が必要です。文字を大きくする、色使いやコントラストを変えて見やすくする工夫も有効です。高齢者は明暗順応に時間を要すことから、作業場や通路の照度のムラをなくすることも大切です。また、聴力に対しては、高周波数域の聞き取り低下が著しいことから、作業に関する音情報の質を低周波にシフトすることも考えなければなりません。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して高齢者の視力・聴覚の問題解決へ取り組むことを期待します。</p>
<p>(物忘れ・ポカミスの改善には)</p> <p>物忘れなどの原因には、加齢の影響のみならず作業者の生活状況、疲れや健康、作業の煩雑さや作業手順の変更等に起因する様々な要因が関連しています。特定の人にポカミスが多ければ、その人の生活面や健康面に関する事柄、特定の作業にポカミスが多い場合は、作業内容、作業条件、機器類に問題があると考えられます。作業に関する対策として、必要以上の注意集中の排除、作業指示の伝達法の確立、用語の統一、ポカミス発生時の停止及び警告装置つき機器や治工具改善、作業の標準化や作業への興味が持てるようにする工夫も大切です。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して高齢者の視・聴覚の問題解決へ取り組むことを期待します。</p>
<p>(疲労の回復には)</p> <p>疲労の回復法の原則は、休息です。疲れの原因となる仕事のなかでの負荷を軽減することも大切です。作業時間中に小休止できる時間を組み込むことから、肩や腕の筋肉の疲れをとるストレッチをする。時には休暇をとって休養することも必要です。疲れの程度やその原因にあわせた疲労回復方法が望まれます。例えば、きつさや負荷の度合いの緩和法として、取り扱う器具や材料を手元において、移動は同じ高さの横移動とし、移動距離を少なくする。緊張のいる仕事や重量物を扱う仕事は可能な限り機械化して作業への負荷を減らす。VDT 作業のような静的仕事の疲れの場合は、一連続作業時間を 60 分までで 5 分程度の小休止を入れる。頸肩腕部や腰部の筋肉の疲れを伴う場合には、頸肩腕予防体操や腰痛予防体操等が有効となります。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して疲労回復問題の解決へ取り組むことを期待します。</p>
<p>(健康の保持増進には)</p> <p>職場で行われる作業への健康診断は、一般健康診断と特殊健康診断の 2 つに大別されますが、それ自体だけでは負傷や疾病の予防にはなりません。健康保持や増進には職場の危険な機械や器具及び状態を除去する作業条件・環境の改善へ結</p>

びつけて行くことが求められます。また、職場内の健康づくりに関する事業者への努力義務としてTHP(トータルヘルスプロモーションプラン)すなわちこころと体の健康づくりの推進が展開されています。これは生活状況調査や運動機能検査などの健康度を測定する項目とその結果に基づいて、運動指導と保健指導、必要に応じて心理相談と栄養指導を行うという健康指導です。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して健康保持や増進へ取り組むことを期待します。

(高齢化対応型の雇用システムについて)

人生 60 年から 80 年時代に向かう高齢者雇用システムとしては ①「年功序列的処遇及び賃金体系等の雇用管理の見直し」(各種定年制や継続雇用制度) ②「仕事への適応に関する教育訓練・能力開発制度の確立および個人への自己啓発支援」(ワークアビリティ、エンプロイアビリティ) ③「企業としての積極的健康管理への取り組み」(トータルヘルスプロモーション)、④「高齢者対応型の働きやすい職場づくり」(エルゴマアプローチ)があげられます。

本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して高齢化対応型の雇用システムへ取り組むことを期待します。

(高齢化対応型の能力開発について)

「超高齢・少子」社会ではこれまで培った高年齢者の流動性能力の低下を補い結晶性能力を充分発揮させ、継続就労が可能であるような明るく元気で生産性の高い企業づくり・職場づくりへの体質改善を実践して行くことが企業存続の鍵となります。現在実施されている高年齢者の能力開発は、例えば、①通信教育の受講、②公的資格の取得奨励援助、③研修期間のセミナーなどへの派遣、④グループ内の企業出向によるマネジメント教育、⑤社内研修の講師の積極的担当、⑥管理職定年年社内再配置、⑦新職種、新業務、新部署への転換による刺激、⑧現業務の改善に関する徹底的研究の指導等、まだまだ数多くのものが上げられます。本システムの改善手法や支援機器及び具体的改善事例を参照して中高年齢者の能力開発へ取り組むことを期待します。

計 21 項目

2) 改善のヒント

図 2-2-9 に示すように“チェック結果”には、コメントの他に「改善のヒント」ボタンが設計され、改善の実践に向けてチェック項目に関する「改善事例」「改善手法」「支援機器」「用語解説」とリンクされるようになっている。

「改善のヒント」からの検索結果一覧は、結果数が膨大となるため“改善事例”は、過去3年分の事例のみ、改善手法は、一般知識のみが表示されるようにした。

図 2-2-10 に「改善のヒント」からのリンクされる検索結果を示す。



図2-2-9 チェック結果の表示例



図 2-2-10 「改善のヒント」からのリンクされる検索結果